



令和4年2月7日（月）no.43 文責：上田
休校に伴う対応に

ご理解ご協力いただきありがとうございました

1月27日(木)～2月2日(水)の休校につきましては、大変ご心配をおかけしました。

先々週末に感染の確認があり、基準としてきた『学校で新型コロナウイルス感染者が確認された場合の対応について』(村教育委員会)に沿って、未診断の風邪等の症状を有する者が複数いないか、家族以外に濃厚接触者がいないかなどを確認しながら感染対策を講じましたが、複数学年で家族を含む感染があり、また、地域での感染拡大の予兆も見られたことにより、教育委員会等と協議して臨時休校することとなりました。26日(水)夕刻の突然のメール連絡に驚かれたことだと思います。休校期間については、当初は31日(月)までの5日間でしたが、休校中にも兄弟姉妹を含む家族の濃厚接触者の感染確認もあり、期間を延長することになりました。

2月3日(木)に学校を再開しても自宅療養・待機等の児童もいましたが、多くの子どもたちが登校して元気な顔を見せてくれました。休校中、不要不急の外出を控えていただくなど、様々な行動自粛を求めることになり、子ども達も不安とストレスを抱えたことだと思います。3日、朝の健康観察後には校長より『心の針』と題した講話を行うとともに、担任から学年に応じた感染症についての学習や感染防止対策についての健康指導を実施しました。

※ 『心の針』(要旨)

・・・感染リスクのある中、不安が悲観的な気持ち(不安だから「かかったらどうしよう」「大変だ」など)や楽観的な気持ち(不安だから「考えないようにしよう」「さわぎすぎだ」など)にさせるが、私たちには耐える力(回復力)がある。不安な時には身近な人に話を聞いてもらい冷静になること大切である。

感染への不安は誰にでもあります。熊本県下でも10代未満や10代の感染が多数を占めていると報じられています。また、特に高齢者等の重症化にもつながるのではないかと不安の声があります。学校では子ども達の心の変化にも注意を払いながら消毒等の感染防止対策を徹底します。ご家庭での感染防止対策の継続・徹底をお願いします。



『心の針』(一部加筆)